



UNIVERSITAT  
POLITÈCNICA  
DE VALÈNCIA



Escuela Técnica Superior de Ingeniería del Diseño

## バレンシア工科大学交換留学報告書

高知工科大学システム工学群3年 川見 稜

### はじめに

私は2019年1月から6月末までの約半年間、スペインのバレンシア工科大学 (Universitat Politècnica de València: 以下 UPV) に科目履修留学をしました。バレンシアはマドリッド、バルセロナに次ぐスペイン第三の都市で、パエリア発祥の地でもあります。街中は緑や公園が多くあり、遊んでいる子供や犬と一緒に散歩している人々をよく見かけました。UPV は日本でいうマンモス校に値する規模の大学で、生徒数約 4 万人、常に1000人以上の留学生在がヨーロッパ各地だけでなく、世界中から勉強や研究をしに来ているようでした。私が所属していたデザ

イン学科では、約半数の生徒が英語で開講される授業を中心に履修している影響で、英語が堪能な同級生がほとんどだったのが印象的でした。日本人にも訛りがあるように、スペイン人にも他国からの留學生にも訛りがあったので、耳が慣れるまでは英語を聞き取ること自体が大変だったことを覚えています。

### 学校生活について

私は UPV のデザイン学科内に属している航空工学コースに登録し、英語で開講される4つの授業を履修しました。その中でも印象に残っている Statistics(統計学)と Airport Engineering(空港工学)について少しだけ紹介したいと思います。



バレンシアはスペインの東側中央部に位置する海沿いの穏やかな街です。

Statistics では文字通り統計の基礎を学んだり、パソコンのソフトを用いてデータを可視化したり、そこから見えてくるデータの特徴を習ったりしました。私がこの授業で驚いた点は、実験パートで飛行機を製作したことです。まさか、統計の授業で飛行機を製作することになるとは思ってもみなかったので、



一緒に飛行機を製作したクラスメイトと

先生に「これって Statistics ですよ？」と思わず聞いてしまった記憶があります。UPV の生徒は、1 回生の段階から航空工学のコースに属することになるため、授業の中で航空の要素が盛り込まれることに慣れているようでしたが、私をはじめとしたアメリカやカナダからの留学生は初めのうち驚きを隠せませんでした。最初に作った試作機に加え、改良版を2回製作したり、飛行条件を変えながら実験することは時間も頭も使い大変でしたが、初めに予想していた授業とは異なる部分が多く楽しかったです。

続いて渡航前から最も楽しみにしていた Airport Engineering について紹介します。この授業では、空港の設備やサービスについて学習しました。と言うと浅く聞こえてしまうかもしれませんが、空港のあり方や空港周辺の交通網や環境・騒音問題、滑走路やターミナルに必要な要件など、多岐にわたる様々な分野の問題を、計算式を用いながら導出しました。



Aeropuerto de Teruel の様子

またこの授業では、校外学習のような位置付けでバレンシア空港と Aeropuerto de Teruel という、航空機の点検・解体を行う飛行場を見学させてもらう機会がありました。Aeropuerto de Teruel では、点検修理中のガソリンの匂いのするエンジンや航空機を間近で見たり、実際に滑走路を歩きながら、授業で習った側縁灯の色を確認したりと、本当に貴重な経験を積むことができました。

### 食事について

スペインと日本の大きな共通点を上げるとすれば、そのひとつに『お米』の存在があるのではないのでしょうか。バレンシアは前述のようにパエリア発祥の地である影響もあり、スーパーに行けば簡単に、白米だけでなく玄米やリゾット用のお米を購入することができました。特別お米が好きという訳でもないのですが、卵かけごはんや



バレンシアパエリアを調理する様子

焼飯やオムライスが恋しくなった時にすぐに食べられるという点に置いては、随分助けられたような気がしています。

また、スペインには14時まで働いた後、17時までお店を閉める習慣があります。季節が夏になるにつれて日が長くなり、夏至にあたる6月24日には22時前まで空が明るいことも影響しているのだと思いますが、昼食の時間は14時から、夕食に至っては20時以降が当たり前でした。私は夕食をなるべく早めに済ませたかったので、友人と外食する時以外は基本的に自炊をしていました。醤油は近くのスーパーでも当たり前のように売っていましたが、地下鉄を使うと15分ほどで着く、市街地のアジアンスーパーに行けば、インスタントラーメンや蕎麦など大抵のものは揃えられたので、作りたいものが作れないといったことは起こりませんでした。

また、一緒にアパートでルームシェアをしていたフラットメイトのひとりが、お肉を食べない食生活を取り入れており、日本ではまだまだ珍しい新しい形の食文化に触れられたことも良い思い出です。

スペインは美食の国としても有名なので、スパニッシュオムレツやパエリアやハンバーガー、ベジタリアン料理やスーパーに売っているバゲットにクロワッサンにマカロンなど、基本的には何を食べてもハズレがなく、本当に美味しかったです。

### 留学を終えて

半年間の留学生生活を振り返って、最も感じることは留学出来て本当に良かった、ということです。もちろん、日本にいる家族や友人が恋しくなった時期もありましたし、スペイン語や郷土料理を学んでみたかった等、後悔していることもあります。ですが、英語で授業を受け、単位を取れたことは私自身にとってとても大きな経験になりましたし、今でも連絡を取り合う大好きなフラットメイトに出会えたこと、スペインの人々のおおらかで優しい人柄に触れ、少しでも自分に自信を持てるようになれたことなど、得られた物の方が何倍も大きかったです。

最後に、交換留学を支えてくださった高知工科大学国際交流部の皆様、授業やテストの調整をしてくださった先生方、留学時期等の相談に乗り、アドバイスをくださった先生方、そして大切な家族と友人に心から感謝し、私の報告書を終わりたいと思います。



バレンシアの伝統的な火祭り Fallas で製作されるオブジェ



芸術学園都市というバレンシアの観光名所のひとつ